



働く職員の健康を守ろう

組織一丸となって 職員のメンタルヘルスを守る

コロナ禍で職員の心理的影響が強くなる中、まずは「医療・介護の最先端で働く職員の健康を守ろう」と、同仁会では理事長アピールに基づき、健康サポートチームができました。

「心の健康度チェック」を実施 健康サポートチーム

まず職場長あてに、「組織一丸となって職員のメンタルヘルスを守ろう」とメッセージを発信しました。そして職員自身が心の状態に気づき、早めに対処することで心の健康につながり、「心の健康度チェック」を実施しました。

調査は全職員を対象とし、半数以上の職員から回答がありました。

コロナの影響により、生活様式も大きく変わり、また仕事においても、業務量の増加、通常とは異なる業務、自身、家族、同僚への感染の恐怖などから、精神的疲労を感じていることがわかりました。

結果をもとに、健康サポートチームで介入方法を検討し、個人や集団へのアプローチ

子をし、環境変化要因の大きい方へは、カウンセリングを案内しています。

できることから取り組んで、 ご自身を大切に

「ささえ隊」ニュースを毎月発行

健康サポートチームの現在の活動として、「ささえ隊」ニュースを毎月発行し、全日本民医連の「セルフケアのための10のヒント」に関する情報、カウンセリング日程など、法人の相談体制について情報提供をしています。職員の皆様の目には届いていきますか？

終息の兆しが見えない中、不安は尽きないと思います。職員自身の健康を守るため、できることから一つずつ取り組んで、自分を大切にしていきたいと思います。

友の会会員のメッセージ などは職員の励みに

新型コロナウイルスの感染が広がる中、私たちの生活にも様々な影響が出ています。ご支援隊「ニュース」第1号・第2号では、友の会からの応援メッセージを紹介しました。長引く新型コロナウイルスの影響で、人と人とのつながりをなかなか持つことができないかもしれません。そんな中で、友の会の皆様からのメッセージや、医療物資などの支援は職員にとって大きな励みとなります。地域としっかりつながっているという実感は、安心以外のなものでもありません。

本号にありがとうございます。

このコロナ禍を乗り切るために「人と人とのつながり」「心の寄り添い」が大切だと思っています。皆様と一緒に、この困難を乗り越えましょう。

(健康サポートチーム)

酒井見名子

河原林病院長

地域医療を推進する 決意を語る



師を配置したこと、さらに具体的な術前管理指導体制と術後の早期回復に向けた取り組み内容を紹介しました。またこの間、医師会とともに保健所、地域医療機関がワンチームとなり、患者の受け入れを行うなど、堺市の救急医療・急性期医療機能を維持するために取り組んできた過程で得た教訓や展望を報告しました。

・総合診療科部長からは、COVID-19診療体制、受診患者から見えてきた傾向を踏まえ、当院での取り組みの全体像を紹介しました。アートを通じた入院患者や職員の癒しの取り組み、日常の感染予防や患者教育に役立つ漫画を活用した資料なども公開しました。

最後に前病院長の奥村伸二医師からは、9年勤務めた院長職を退任するにあたり、地域医療機関に変わらぬ連携のお願いと感謝の意を表明しました。

地域の医療機関の先生方から、クリニックでの日常診療に関する多くの質問が出され、有意義な意見交換ができました。地域医療支援病院として今後も変わらず、地域医療を推進していく決意をお伝えした講演会となりました。

(耳原総合病院サポートセンター) 地域連携室
松本 昌宏

9月19日、「第24回地域医療連携をすすめる会」を開催しました。本会は、地域の医療機関と連携を深める場として開催し、29人の方(うち医師23人)のご参加をいただきました。

講演会では、当院の診療の取り組みとして、3演題を報告しました。

河原林病院長からは「一周術期※1管理の強化と地域医療の展望」と題して、まず手術を安全に高水準で提供することを目的に周術期センターを開設し、診療科を越えた連携の枠組みの中で4人の看護

注意すべき点、治療上の注意などを示し、検査の使い方、感染対策、問診を活用しながら解釈する必要など、現時点での臨床的特徴のまとめと対応について報告しました。

大矢亮総合診療センター長

耳原総合病院

第24回地域医療連携をすすめる会

吉岡医師(耳原総合病院整形外科部長)がラジオ出演

●12月8日(火)〜10日(木) 17時10分〜17時15分

●ABCラジオ(AM10008・FM93.3)

佐藤修平のとおき情報「骨の病気で放っておけない症状」

※腰の痛みのプロフェッショナルが、注目の治療法についてお答えします。

